

地区名	瑞浪（山田）地区	番号	1
タイトル	各地区で管理する公園について 地区の公園コンペの開催の提案		
ご意見の内容			
<p>私の住む穂並区でも穂並公園の清掃を年2回行っている。まちづくり協議会の花の苗の配布を利用して花壇の整備も子供会中心に行ってもらっているが、「自分たちの公園」という意識が低いせいか、盛り上がりに欠けている。「自分たちの公園」という強い気持ちを作るため、「わがまちの公園コンペティション」を行ってはどうか。区単位やボランティア団体からのエントリーに対し書類選考を行い、他の地域の模範になりそうな企画には「奨励金」を出して成果報告をしてもらい、成果についても賞や賞金などがあれば盛り上がるのではないか。公園の整備やレベルアップはその地域の「価値」を上げることになると思う。</p>			
市長の回答	担当課	都市計画課	
<p>本市には市が管理している都市公園が31ヶ所あり、その内の22ヶ所では、地域の有志の方が里親制度に登録され、公園の美化活動に協力していただいている。県において、企業の敷地内にある環境美化に対して表彰するという制度もあり、市でも県の取組を参考に研究したいと考えている。</p>			

地区名	瑞浪（山田）地区	番号	2
タイトル	ミツバチの巣箱から考えてほしいこと		
ご意見の内容			
<p>瑞浪地区のまちづくりの委員を7年務めている。新たな事業ということでミツバチについて勉強会をし、2年前から巣箱を設置しているが、今年もミツバチが入ってくる様子はない。ミツバチは環境指標の生物といわれており、ミツバチがいなくなれば地球のすべての生物が減びるということはよく言われている。のどかで緑豊かな瑞浪市であってもこのような状態は非常に危惧されることである。ミツバチの生育に適さない農薬が使用されているなどの話も専門家から聞いたことがある。</p> <p>人間も含めて、生き物が安心安全に暮らせるまちであるか、作付けしている場所の農薬散布の量や実態の調査は行っているのか、地元農家の農薬使用についてもっと学びを深めて頂きたいと思う。このベースができていない限り、私たちが望んでいる「未来を生きる子どもたちに安心安全な食べ物を食べさせてあげたい」という大きな目標は達成できないのではないかと考える。</p>			
市長の回答	担当課	農林課	
<p>農薬は多くの店舗で販売され、農業者のほか、家庭菜園を営んでいる方など不特定多数の方が使用するため農薬散布量等の実態調査を行うことは困難である。きなあた瑞浪に出品されている農作物に関しては、栽培履歴にて適正な農薬散布が行われていることを確認し、野菜を納品してもらっている。</p> <p>市としては農協と連携し、実態把握や農薬についての指導を行っていきたいと思う。また、有機農法や無農薬農法の取組について勉強することも1つの方法と考える。</p>			

地区名	瑞浪（山田）地区	番号	3
タイトル	子どもたちの給食をオーガニックに！		
ご意見の内容			
<p>環境問題やこの時代に生きるために必要な免疫力を高めるための勉強会を行っている。「子どもたちの給食をオーガニックに！」ということで、その活動でつながった皆さんとの連携により「ミネラル・オーガニックシンポジウム」が開かれ、せいわ保育園の活動についての発表を行った。瑞浪市でもぜひこれからの教育・保育の大切な食育の一環としてだけでなく、オーガニックにすることにより地球環境や医療費の削減、豊かな人々の生活の保障、自然農がもたらす様々な利点についてご理解頂き、早急に取り組んでいただきたい。</p> <p>せいわ保育園だけが自然農の野菜を口にするのではなく、すべての幼稚園や小・中学校で、また保護者の方が子どもたちの口にするものについて真剣に考えていただきたい。</p>			
市長の回答	担当課	農林課 学校給食センター	
<p>有機農法や無農薬農法については国、県を挙げて指導しているところだが、給食でのオーガニック野菜の導入が困難な理由として、量や価格、安定供給などの課題がある。国策として進めば、現実的な事業となってくるのではないか。まずできるところから始めてもらい、それが周りに広がっていくことが望まれる。国から生産農家の育成やオーガニックに対する補助金などがなければ、農家も育成できない、農家が育たなければ安定した供給ができない、これが現状であるように思う。国、県、農協の動向などの情報収集をしながら取り組んでいきたい。食育、食の安全は大切であると認識している。</p>			

地区名	瑞浪（山田）地区	番号	4
タイトル	瑞浪駅周辺のまちづくりについて		
ご意見の内容			
<p>瑞浪駅周辺のまちづくりについて、駅北と駅南をつなぐものとして地下道があるが、駅舎の高架化についての検討はあるか。</p>			
市長の回答	担当課	都市計画課	
<p>高架化が理想ではあるが、事業費やJR東海との兼ね合いもあり難しいのが現状である。瑞浪市としては地下道を改修し、駅北エリアに改札口をつくるのが現実的などところである。北と南が行き来できなければ相乗効果も出ないため、しっかりと考えていきたい。</p>			

地区名	瑞浪（山田）地区	番号	5
タイトル	コロナ禍におけるマスク着用について		
ご意見の内容			
<p>国や県から降りてきたことを共有し、しっかりと市民に伝えなければならないとの市長の言葉があったが、子どものマスク着用については、厚生労働省から「2歳以上から就学前の子どもについてはマスク着用を一律には求めている」という文言がしっかりと出ているにも関わらず、保護者には伝わっていない。市からいただいている文書の中にも一切触れられていないために、マスク着用についての判断を親に周知することができていない。</p>			
市長の回答	担当課	子育て支援課	
<p>新型コロナウイルス感染症の基本的な感染症対策として、マスクの着用は重要であり、会話をする際等には、マスクを着用していただくよう、様々な場面で皆様にはお願いしている。マスク着用の考え方については、どのような場面で外してよいのかというご意見や、マスク着用が長期化する中で表情が見えにくくなることによる園児の成長への悪影響を懸念するご意見などがある。特に園児のマスク着用については、これからの時期、熱中症も懸念される。</p> <p>今後の市内幼稚園における園児のマスク着用の考え方については、厚生労働省、岐阜県の方針に準じ、未満児（0.1.2歳児）についてはこれまでと同様、マスクが日常的にできない年齢の為、マスク着用は求めない。以上児（3.4.5歳児）についてはこれまでオミクロン株への対応として、可能な範囲でマスク着用を奨めてきたが、今後はマスク着用を一律には求めない。（表情による、発達の状況や体調の確認等を踏まえていくことから、他者との距離、室内外にかかわらずマスク着用は求めない）</p>			

地区名	瑞浪（山田）地区	番号	6
タイトル	新病院における産婦人科の新設について		
ご意見の内容			
<p>統合による新病院の建設について、新病院には産婦人科が新設されるのかお伺いしたい。瑞浪市は産科がなくなり、出産となると恵那か多治見に行くことになる。未来の子どもに渡せるまち、というコンセプトから今後瑞浪市に定住・移住してもらうことを考えると、産婦人科は必要ではないか。</p>			
市長の回答	担当課	健康づくり課	
<p>新病院は今までの病院にはない機能を備え、総合病院を目指している。新病院の基本構想・基本計画の中では、産婦人科について開設する方向で位置づけている。周産期医療は岐阜県立多治見病院で対応しており、それを補完する病院として新病院にも周産期医療を開設したいと考えているが、まずは産婦人科をしっかりと掲げたいと思う。働き方改革の実施により、医師のローテーションが難しくなるが、病院を統合することにより医師のローテーションが組め、診療が維持できる。新病院に産婦人科が開設できるよう取り組んでいく。</p>			